

OECD生徒の学習到達度調査(PISA) 2003年調査国際結果報告書(抜粋)

6.1 学校の学習環境 (調査対象校の学校長等を対象とした調査)

調査対象校の学校長あるいは学校長の指名を受けた教師を調査対象者として、「学校質問紙」を実施した。

6.1.1 教師に起因する学級雰囲気

以下に示す7項目〔(1)、(3)、(5)、(6)、(9)、(11)、(13)〕が高校1年生の学習にとって、どの程度、支障となっているかの観点から、4選択肢〔「全くない」「非常に少ない」「ある程度はある」「よくある」〕で評定を求め、これによって教師に起因する学級雰囲気を捉えた。

- (1) 生徒に対する教師の期待が低いこと
- (3) 生徒と教師の人間関係が乏しいこと
- (5) 教師が個々の生徒のニーズに応えていないこと
- (6) 教師の欠勤
- (9) 改革に対する教職員の抵抗
- (11) 教師が生徒に対して厳格すぎる
- (13) 生徒の潜在能力を十分引き出すような指導がなされていないこと

表 6.1.1 教師に起因する学級雰囲気——各項目の回答の割合
——「ある程度はある」あるいは「よくある」の回答の合計の割合——

(1) 生徒に対する教師の期待が低いこと	(3) 生徒と教師の人間関係が乏しいこと	(5) 教師が個々の生徒のニーズに応えていないこと	(6) 教師の欠勤	(9) 改革に対する教職員の抵抗	(11) 教師が生徒に対して厳格すぎる	(13) 生徒の潜在能力を十分引き出すような指導がなされていないこと
香港 43	イタリア 34	オランダ 54	オランダ 44	オランダ 38	日本 21	香港 40
イギリス 40	香港 24	オーストラリア 48	アイルランド 30	日本 42	香港 20	オランダ 39
ニュージーランド 40	日本 23	アイルランド 47	イギリス 29	イタリア 36	オランダ 18	日本 37
オランダ 38	オランダ 20	ニュージーランド 46	ドイツ 23	オーストラリア 34	イタリア 13	韓国 27
日本 32	ニュージーランド 18	イギリス 45	香港 21	アメリカ 33	アイルランド 9	イタリア 24
韓国 32	アイルランド 15	香港 44	フィンランド 20	カナダ 32	カナダ 8	ニュージーランド 24
オーストラリア 31	オーストラリア 15	フィンランド 35	オーストラリア 16	香港 31	韓国 8	イギリス 23
アイルランド 29	フィンランド 14	日本 34	アメリカ 13	アイルランド 28	オーストラリア 8	ドイツ 23
アメリカ 24	韓国 14	カナダ 32	韓国 11	イギリス 26	ニュージーランド 6	アイルランド 21
イタリア 12	アメリカ 14	アメリカ 31	イタリア 10	ドイツ 24	フィンランド 6	オーストラリア 19
カナダ 11	ドイツ 14	ドイツ 30	ニュージーランド 8	ニュージーランド 23	アメリカ 5	フィンランド 16
ドイツ 9	イギリス 13	韓国 28	カナダ 8	韓国 17	イギリス 4	カナダ 16
フィンランド 7	カナダ 12	イタリア 28	日本 4	フィンランド 13	ドイツ 3	アメリカ 13
OECD 平均 26	OECD 平均 19	OECD 平均 36	OECD 平均 22	OECD 平均 27	OECD 平均 12	OECD 平均 27
範囲* 36	範囲 22	範囲 26	範囲 41	範囲 45	範囲 18	範囲 27

*範囲 (range) は最大値と最小値の差を示す。丸めの誤差のために、この差の値は、表の数値から算出される値と一致しない場合もある。

日本は、7項目中、「(5) 教師が個々の生徒のニーズに応えていないこと」「(6) 教師の欠勤」を除いて、OECD平均より高く、そのうちの4項目は、上位3位以内に含まれており、教員に起因する学級雰囲気は、必ずしも良好な状況とは言えない結果である。

6.1.2 生徒に起因する学級雰囲気

以下に示す6項目(2)、(4)、(7)、(8)、(10)、(12)が高校1年生の学習にとって、どの程度、支障となっているかの観点から、4選択肢(「全くない」「非常に少ない」「ある程度はある」「よくある」)で評定を求め、これによって生徒に起因する学級雰囲気を捉えた。

- (2) 生徒の欠席
- (4) 生徒による授業妨害
- (7) 生徒が授業をさぼること
- (8) 生徒による教師への敬意が欠けていること
- (10) 生徒がアルコールや違法な薬物を使用すること
- (12) 生徒が他の生徒を脅したりいじめたりすること

表 6.1.2 生徒に起因する学級雰囲気——各項目の回答の割合
——「ある程度はある」あるいは「よくある」の回答の合計の割合——

(2) 生徒の欠席		(4) 生徒による授業妨害		(7) 生徒が授業をさぼること		(8) 生徒による教師への敬意が欠けていること		(10) 生徒がアルコールや違法な薬物を使用すること		(12) 生徒が他の生徒を脅したりいじめたりすること	
アメリカ	67	ドイツ	50	イタリア	62	イギリス	34	カナダ	31	香港	25
イタリア	67	イギリス	47	カナダ	57	日本	32	アイルランド	24	オーストラリア	24
カナダ	64	アイルランド	47	ニュージーランド	38	香港	28	アメリカ	21	ドイツ	24
ニュージーランド	63	オランダ	42	アメリカ	35	オランダ	27	ニュージーランド	20	オランダ	21
アイルランド	63	ニュージーランド	41	フィンランド	34	ニュージーランド	24	香港	18	アイルランド	21
フィンランド	56	イタリア	40	オランダ	29	カナダ	24	イギリス	14	イギリス	20
イギリス	54	フィンランド	38	ドイツ	25	韓国	23	韓国	13	カナダ	18
オーストラリア	52	オーストラリア	37	日本	28	アイルランド	22	ドイツ	9	ニュージーランド	15
オランダ	42	カナダ	33	イギリス	22	オーストラリア	22	オランダ	7	アメリカ	14
日本	39	香港	31	アイルランド	21	ドイツ	22	オーストラリア	6	韓国	13
ドイツ	34	アメリカ	27	香港	21	アメリカ	21	フィンランド	4	イタリア	8
香港	27	韓国	18	オーストラリア	20	イタリア	17	日本	1	フィンランド	7
韓国	17	日本	12	韓国	13	フィンランド	12	イタリア	1	日本	7
OECD 平均	54	OECD 平均	41	OECD 平均	36	OECD 平均	24	OECD 平均	12	OECD 平均	16
範囲*	30	範囲	37	範囲	50	範囲	22	範囲	30	範囲	17

*範囲 (range) は最大値と最小値の差を示す。丸めの誤差のために、この差の値は、表の数値から算出される値と一致しない場合もある。

・日本は、OECD 平均より多いのは、6項目中、「(8) 生徒による教師への敬意が欠けていること (32%)」のみで、残りの5項目中、項目(4)、(10)、(12)の3項目は13か国の中で最も少ない方に位置しており、日本の生徒に起因する学級雰囲気は良好な状況にあると判断される。

6.1.3 教師のモラル

教師のモラル（志気）を捉える以下に示す4項目を用意し、4選択肢（「まったくそのとおりである」「かなりあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」）で評定を求めた。

この指標は、数値が大きいほど、教師のモラルが高いことを示している。

- (1) 本校の教師は意欲的だ
- (2) 教師は熱意をもって仕事をしている
- (3) 教師は本校に誇りをもっている
- (4) 教師は学業成績を重視している

表 6.1.3 教師のモラル指標

国名	指標水準別生徒群の指標の平均値				
	全生徒	最下位 25%	中下位 25%	中上位 25%	最上位 25%
	平均値(標準誤差)	平均値(標準誤差)	平均値(標準誤差)	平均値(標準誤差)	平均値(標準誤差)
日本	-0.39 (0.09)	-1.79 (0.07)	-0.78 (0.04)	-0.15 (0.06)	1.17 (0.06)
オーストラリア	0.18 (0.06)	-0.89 (0.06)	-0.38 (0.03)	0.49 (0.02)	1.51 (0.03)
カナダ	0.13 (0.05)	-0.99 (0.05)	-0.42 (0.02)	0.49 (0.02)	1.44 (0.03)
フィンランド	0.30 (0.06)	-0.79 (0.06)	0.10 (0.03)	0.57 (0.01)	1.33 (0.05)
ドイツ	0.04 (0.06)	-1.07 (0.07)	-0.37 (0.04)	0.41 (0.03)	1.18 (0.05)
アイルランド	0.25 (0.09)	-0.98 (0.07)	-0.31 (0.04)	0.65 (0.04)	1.65 (0.01)
イタリア	-0.61 (0.05)	-1.84 (0.04)	-0.64 (0.01)	-0.51 (0.01)	0.54 (0.06)
韓国	-0.42 (0.08)	-1.80 (0.07)	-0.62 (0.01)	-0.26 (0.06)	0.99 (0.07)
ニュージーランド	0.17 (0.07)	-0.89 (0.08)	-0.25 (0.04)	0.45 (0.02)	1.37 (0.04)
アメリカ	0.23 (0.07)	-1.05 (0.08)	-0.22 (0.04)	0.65 (0.02)	1.55 (0.02)
オランダ	-0.18 (0.06)	-0.81 (0.07)	-0.57 (0.00)	-0.18 (0.05)	0.82 (0.08)
香港	-0.37 (0.07)	-1.48 (0.08)	-0.57 (0.00)	-0.23 (0.05)	0.83 (0.07)
OECD 平均	0.00 (0.01)	-1.17 (0.02)	-0.51 (0.01)	0.39 (0.01)	1.27 (0.01)
イギリス	0.25 (0.07)	-0.91 (0.07)	-0.26 (0.04)	0.64 (0.02)	1.55 (0.02)

・教師のモラル指標の値は、フィンランド (0.30)、アイルランド (0.25) イギリス (0.25)、が大きく、教師のモラルは高く、一方、イタリア (-0.61)、韓国 (-0.42)、日本 (-0.39)、香港 (-0.37) は小さく、教師のモラルは低いと判断される。

6.2

生徒の学習環境

(調査対象校の生徒を対象とした調査)

6.2.4 教師の支援

問 35. 学校での数学の授業で、次のようなことはどのくらいありますか。それぞれについて、あてはまる番号に一つ○をつけてください。

いつも そうだ	たいてい そうだ	たまに ある	ほとんど ない
------------	-------------	-----------	------------

- (1) 先生は、生徒一人一人の勉強に関心を持っている ……………1…………2…………3…………4
 (3) 生徒が助けて欲しいときは、先生は助けてくれる ……………1…………2…………3…………4
 (5) 先生は、生徒の学習を助けてくれている ……………1…………2…………3…………4
 (7) 先生は、生徒がわかるまで何度でも教えてくれる ……………1…………2…………3…………4
 (10) 先生は、意見を発表する機会を生徒に与えてくれる ……………1…………2…………3…………4

表 6.2.4 a 「教師の支援」指標の各質問項目への回答

[各選択肢の選択者の割合]

質問項目		選択肢別選択者の割合 (%)			
		「いつも そうだ」	「たいてい そうだ」	「たまに ある」	「ほとんど ない」
		割合 (%)	標準 偏差	割合 (%)	標準 偏差
(1) 先生は生徒一人一人の勉強に関心を持っている	日本	8.3 (0.6)	40.6 (0.8)	34.5 (0.7)	15.3 (0.7)
	OECD 平均	21.0 (0.2)	35.7 (0.2)	31.1 (0.1)	10.2 (0.1)
(3) 生徒が助けて欲しいときは、先生は助けてくれる	日本	15.8 (0.7)	45.7 (0.8)	27.3 (0.7)	9.9 (0.6)
	OECD 平均	39.0 (0.2)	35.5 (0.1)	24.4 (0.1)	8.5 (0.1)
(5) 先生は生徒の学習を助けてくれている	日本	21.2 (0.8)	51.2 (0.8)	21.0 (0.6)	5.5 (0.5)
	OECD 平均	36.1 (0.2)	35.2 (0.2)	19.8 (0.1)	6.3 (0.1)
(7) 先生は、生徒がわかるまで何度でも教えてくれる	日本	12.9 (0.6)	36.2 (0.8)	31.0 (0.7)	18.4 (0.8)
	OECD 平均	27.1 (0.2)	33.6 (0.1)	25.7 (0.1)	11.0 (0.1)
(10) 先生は、意見を発表する機会を生徒に与えてくれる	日本	15.0 (0.8)	31.0 (0.9)	33.3 (0.8)	19.5 (0.9)
	OECD 平均	22.5 (0.1)	35.4 (0.1)	26.6 (0.1)	12.8 (0.1)

無回答者の結果は表示していないため、割合 (%) の合計は 100 でない。

わが国の生徒は、すべての質問項目において、「いつもそうだ」と回答する生徒の割合が OECD 平均よりも少ないことを示している。「(10) 先生は、意見を発表する機会を生徒に与えてくれる」かについては、「いつもそうだ」と「たいていそうだ」を合わせた生徒の割合が、わが国が 46% であるのに対して、OECD 平均では 58% と 12 ポイント高い。わが国では 20% の生徒が「ほとんどない」と回答した。

6.2.5 学校の先生と学校の印象

問 23. あなたの学校の先生について、どのように思っていますか。それぞれについて、あてはまる番号に一つ○をつけてください。

とても そう だと思う	そう だ と思う	そう は 思 わ ない	全然 そ う 思 わ ない
-------------------	----------------	-------------------------	------------------------------

- (1) 生徒は、たいていの先生とうまくやっている1.....2.....3.....4
- (2) 多くの先生は、生徒が満足しているかについて関心がある1.....2.....3.....4
- (3) たいていの先生は、こちらが言うべきことをちゃんと聞いている1.....2.....3.....4
- (4) 助けが必要なときは、先生が助けてくれる1.....2.....3.....4
- (5) たいていの先生は、私を公平に扱ってくれる1.....2.....3.....4

表 6.2.5a 「生徒と教師の関係」指標の各質問項目への回答

[各選択肢の選択者の割合]

質問項目		選択肢別選択者の割合 (%)			
		全くそう だと思う	そう だ と 思 う	そう は 思 わ ない	全く そ う 思 わ ない
		割合 (%) (標準 誤差)	割合 (%) (標準 誤差)	割合 (%) (標準 誤差)	割合 (%) (標準 誤差)
(1) 生徒は、たいていの先生とうまくやっている	日本	7.7 (0.5)	56.1 (0.9)	29.2 (0.8)	6.7 (0.4)
	OECD 平均	9.7 (0.1)	60.0 (0.2)	23.8 (0.1)	5.0 (0.1)
(2) 多くの先生は、生徒が満足しているかについて関心がある	日本	5.1 (0.4)	39.4 (0.9)	43.2 (0.9)	11.4 (0.6)
	OECD 平均	9.7 (0.1)	56.6 (0.2)	26.1 (0.2)	5.5 (0.1)
(3) たいていの先生は、こちらが言うべきことをちゃんと聞いている	日本	4.5 (0.3)	48.8 (0.9)	36.7 (0.8)	9.2 (0.5)
	OECD 平均	9.3 (0.1)	54.0 (0.2)	28.7 (0.1)	5.8 (0.1)
(4) 助けが必要なときは、先生が助けてくれる	日本	7.4 (0.4)	49.6 (0.7)	33.1 (0.7)	9.0 (0.5)
	OECD 平均	14.4 (0.1)	60.1 (0.2)	18.9 (0.1)	4.3 (0.1)
(5) たいていの先生は、私を公平に扱ってくれる	日本	7.8 (0.4)	58.6 (0.8)	24.4 (0.7)	8.4 (0.5)
	OECD 平均	13.1 (0.1)	62.0 (0.2)	17.6 (0.1)	5.1 (0.1)

無回答者の結果は表示していないため、割合 (%) の合計は 100 でない。

わが国の生徒は、すべての質問項目において、「全くそうだと思う」と回答する生徒の割合が OECD 平均よりもやや少ないことを示している。「(2) 多くの先生は、生徒が満足しているかについて関心がある」かについては、「全くそうだと思う」と「そうだと思う」を合わせた生徒の割合が、わが国が 45% であるのに対して、OECD 平均では 66% と 20 ポイント高い。